

令和6年8月30日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学校名	管理機関名	設置者の別
静岡県立榛原高等学校	静岡県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
静岡県立 榛原高等学校	https://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/ SearchMainView/94600564F321AFA749258995001CE8B3?OpenDocument

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
静岡県立榛原高等学校	同上	同上

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・ 実施している
- ・ 実施していない

＜特記事項＞

【学校設定教科（科目）のプログラム開発、探究活動の実践及び評価方法についての研究】

令和5年度は、1年生が「地域創造探究Ⅰ、Ⅱ」、2年生が「地域創造探究Ⅱ、Ⅲ」、3年生が「地域創造探究Ⅲ」、2年生選択者対象の「発展地域創造探究」を実施した。

昨年度に引き続き、探究方法の知識・技能を身に付けるための教科用図書の活用、配布プリントの内容等についての研究を行い、また「地域創造探究Ⅰ、Ⅱ」については、年間指導計画やルーブリックの見直し、評価方法についての検討し、一部修正して実施した。

【学校設定教科「地域創造探究」の実施】

○3年間のまとめとしての「地域創造探究Ⅲ」の実施

3年生は、「地域創造探究Ⅲ」を実施し、「自己の生き方・在り方について考えるとともに、地域や世界、社会への貢献の在り方について考えること」を目標として、生徒各自が1、2年次の学習を振り返り、今後の自己の生き方について考え、「My Story For Future」という題でスピーチ原稿を作成した。グループ発表会を行い、生徒による自己評価、相互評価、教員による評価を行った。

○地域の人材を活用した取組（主に1年生「地域創造探究Ⅰ」）

- ・ファシリテーター「CLIP」による対話とグラフィック研修
- ・NPOによる探究ガイダンスとミニ探究活動
- ・牧之原市長講話
- ・行政職員、NPO法人、事業主などによるテーマ別講話

○地域企業との連携（1年生、2年生、2年生発展選択者25人）

- ・1年生：企業訪問希望者1年生18人が、「伊藤園・株式会社ヤマザキ」コースと「TDK・富士山静岡空港」コースに分かれて各企業を訪問した。工場見学、事業内容の説明、企業理念、これからの企業のあり方などについて学んだ。
- ・2年生：シンガポール修学旅行の事前研修として、矢崎シンガポール法人現地スタッフによるシンガポールの気候や文化などに関する研修、現地勤務経験者の方を招いて班別研修に関する相談会を実施した。
- ・発展地域創造探究：矢崎ものづくりセンターを訪問し、工場見学や企業の海外進出等について学んだ。また、海外勤務経験者等を学校に招き、企業のグローバル展開や求められる人材などについて、グループ別研修を行った。夏季休業中には、矢崎総業株式会社Y-CITYを訪問し、YAZAKIのまちづくりへの参画、企業の社会的な存在意義、働く環境づくりや社会貢献活動など具体的な取組に触れることができた。

4. 実施の効果及び課題

（1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

令和3年度から学校設定教科「地域創造探究」を設置することにより、体系的に活動を積み重ね、適切な評価を行うことによって「自ら課題を設定し、他者と協働してより良い解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒」の育成に取り組み、一定の成果をあげることができたと考えている。地域の外部人材を活用した対話を重視し

た活動を通して、生徒たちは協議するスキルやコミュニケーション能力を身に付け、校内外でのさまざまな学習成果発表会等の経験を重ねることにより、思考力、表現力を高め、リーダーとしての資質を育成することができた。

一方で、学校設定教科「地域創造探究」については、教科として数値評価を行うことの難しさや担当する教員の負担増などの課題が浮き彫りになった。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

生徒及び保護者を対象に実施した学校評価アンケートによると、探究学習等を通して思考力・表現力・協働力を高めることができた生徒 83.6%。課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や探究心を身に付けることができた生徒 87.1%。企業や地域について理解を深め働くことの意味を深めることができた生徒 81.3%であった。地域と連携した地域創造探究、グローバル事業を実践していると回答した保護者 89.3%。これらの数値から、生徒・保護者ともに本校の探究学習について一定の評価をしていることが分かり、魅力向上につながったと考えられる。また、探究学習等を活かして進学する生徒の数が年々増加している状況であることから、探究学習がスクール・ミッションにある「進学希望の実現」にも大きく貢献していると言える。

5. 課題の改善のための取組の方向性

令和6年度入学生から学校設定教科「地域創造探究」は、目標を大きく変えることなく、「総合的な探究の時間（地域創造探究）」として実施することとした。また、2年次の選択科目「発展地域創造探究」は、学校設定教科・科目「グローバル探究」として実施する。これまでの「地域創造探究Ⅰ～Ⅲ」の実施、地域との連携の実績等を踏まえ、継続して成果をあげていきたい。